



ロータリー財団委員会
委員長

福家 宏

(八尾中央R.C)

大谷Gは：ご着任に当たって「ロータリーを身につけよう」と呼びかけられました。私はロータリー財団月間に当たって皆様に「ロータリー財団への理解を深めて下さい」と呼びかけたいと思います。国際ロータリーとロータリー財団（以下：財団と表記）とは常に密接に連携を取り合っており、ロータリーの「奉仕の理想」を実現する上で同じ方向性を持っていますので、財団について詳しく知ることは自然にロータリーを身につけることに繋がっていくだろうと私は考えております。

財団の始まりは：1917年に遡ります。当時のRI会長アーチ・クランプが「全世界的規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でよりよきことをするために基金を作ろう」と呼びかけたことに始まります。そして1928年に基金は5,000米ドルに成長し、同年の国際大会で「ロータリー財団」と名づけられ、国際ロータリーとは独立した別機関としての道を歩み始めました。そして今日までの90余年のうちにその資産は7億米ドルに達し、これまでに20億米ドルもの資金を（管理運営費含む）ロータリアンの奉仕活動に提供してきました。財団はロータリアンの寄付によって成り立っています。と同時にロータリアンは財団の支援を受けて活動を展開しているのです。財団のビデオを見ますと「財団の恩恵を受けているのはロータリアンです」という言葉が出てきます。私たちは奉仕活動を進める時に財団を重要なリソースと位置づけ、それを活用することで活動はより効果的で優れたものとなるでしょう。

ロータリアンが拠って立つもの：それは国際ロータリーとロータリー財団です。私たちの片方の足

は国際ロータリーの上に、もう一方の足はロータリー財団の上に立っています。しっかりした土台があるから私たちはロータリアンとして活動が出来るのです。その土台を支えているのもまたロータリアンなのです。当たり前のことのようにですが、忘れてはなりません。

財団のプログラム：その第一はポリオ・プラスです。ロータリーはすでに20億人の子ども達にポリオ・ワクチンの接種を進めてきました。そして地球上のポリオの99%までを撲滅することに寄与してきました。残るは1%ですが、この最後の1%の撲滅に実は大変な努力と忍耐と資金を必要とします。（私はPETSと地区協議会でこの件について詳細なご説明をしました。）2008年と2009年にビル・ゲイツ氏はポリオ撲滅のための資金として合計3億5,500万米ドルもの巨額をロータリーに託しました。これに答えて財団は全世界のロータリアンに対し2012年6月までに2億米ドルの寄付を呼びかけました。私たちはロータリーが世界の子ども達に約束をした未来への贈り物（ポリオ根絶）の実現のために、年間4,000円の寄付には是非とも協力致しましょう。ロータリーの2億ドルのチャレンジが成功すれば、ポリオ撲滅の資金は5億5,500万ドルとなります。この大きな資金はロータリーの夢「ポリオ根絶」を非常に現実的なものとするでしょう。

第二は最も歴史のある教育的プログラムです。国際親善奨学金は1947年に創設されました。それ以来財団の援助のもと、およそ100カ国から39,000人を越える学生が留学し、国際親善に役割を果たしてきました。今日では民間団体が提供する海外留学奨学金としては世界最大のものとな

っています。

研究グループ交換 (GSE) も教育的プログラムです。1965年に発足しました。25歳から40歳までのチーム・メンバー4名とロータリアンのチーム・リーダーがGSEチームを構成し、2カ国がGSEチームを交換し、互いの国の文化や職業について学ぶものです。メンバーは相手国のロータリアンの家庭にホームステイします。

世界平和フェロシップ 1942年ポールハリスは、ロータリアン誌に次のような見解を述べています。「戦争が永遠に続くことなどはあり得ません。平和が必ず来るし、来るようにしなければなりません。来る年月、非常に困難で厳しい任務がロータリーを待っています。戦争で荒廃した世界の傷を癒すこと、憎しみを相互理解や寛容に変えること、憎しみの存在するところに愛情を築くこと、敵を友人に代え、激しい怒りや武力紛争を善意と国際平和に代えることがロータリーの任務です。」そのポールハリス没後50周年を記念してロータリーの究極の目標である、紛争解決・世界平和構築のために、1996年ロータリー・アカデミー・センターの構想が審議されました。2000年10月「紛争の解決と平和における国際問題研究のためのロータリー・センター」(通常ロータリー・センターと略す)が発足。そこで学ぶ学生のために世界平和奨学金の授与が始まりました。2005年2月世界平和奨学金の名称を世界平和フェロシップと改め、奨学生(Scholar)はフェロ(Fellow)となりました。当初世界から競争制で70名が選ばれることとなっていました。今は1地区から何人でも推薦できます。世界には7つのロータリー・センターがあります。異なる地域の評価の高い大学がセンターとなります。詳細は「財団地域セミナー・ハンドブック」p41-p45をご参照下さい。

第三は人道的プログラムです。地区補助金、マッチング・グラント、3-H補助金の3種類があります。**地区補助金**は地元の地域社会奉仕のためと、ロータリーが存在しないか、存在しても十分に機能していない外国の地域社会奉仕に利用します。**マッチング・グラント**はクラブ/地区が外国のロータリー・クラブ/地区と協同で実施する地域社会奉仕に利用します。いずれかの地区/ロータリー・クラブが実施国に存在していなければなりません。いずれの補助金も適格性については

人道的奉仕かどうかを問われます。また補助金を受け取った場合は、それがどのように成果を上げたのかを決められた書式で、報告することが義務付けられており、これを怠ると厳しいペナルティーのため地区全体が補助金を受けられなくなることもあります。当地区ではこれらの補助金は活発に利用され、素晴らしい成果をあげています。**3-H補助金**は、大規模の長期的プロジェクトに利用されますが、今年度からプロジェクトの対象が限定され利用は容易でなく、利用をお考えの場合は財団法人道的補助金委員会にご相談下さい。

地区ロータリー財団委員会：ガバナーは地区内ロータリアンに対して財団プログラムと寄付に参加するよう奨励しますが、それを援助することが地区ロータリー財団委員会の目的です。ロータリー財団委員会はロータリー財団とロータリアンの連絡役を務めます。

当地区のロータリー財団委員会の中には①財団情報・増進委員会 ②財団奨学金・学友委員会 ③研究グループ交換 (GSE) 委員会 ④財団法人道的補助金委員会の4つの小委員会があります。それぞれの委員会に委員長が任命されていて、独自に年間の活動目標を定めて互いに連絡を取り合いながら情報を共有し、地区内ロータリアンの財団プログラムへの取り組みを支援します。

ロータリー・カード：2003-2004年度からこの名称のクレジットカードが発行されました。このカードで支払いをすると、金額の0.3%が自動的にポリオ・プラスへの寄付金となって日本事務局に振り込まれます。さらに5,000円ごとに1,000ポイントがつき、これを財団に寄付出来ます。(年次寄付に加算)スタンダード・カードの場合入会金は不要です。クラブの会長・幹事・親睦委員長の皆様には是非入会して頂き、グループでの飲食などには是非ともロータリー・カードで支払いをして頂きたいと思えます。知らず知らずのうちに、寄付金実績が増えます。

ロータリー財団月間が、皆様の財団へのご理解を深めるための有意義な機会となりますことを念じて止みません。